

## 2017年度 主要私立大志願状況(2月17日現在集計)

河合塾

2017/2/20

私立大一般入試では2月入試が終盤を迎え、後期(3月)入試の出願がスタートしている。主要大の2月入試の志願者数が出揃った現時点の志願者集計(2月17日現在)から今春入試を分析する。

## ■一般・センター方式ともに志願者は増加

【表1】は現時点で志願者数が判明している全国106大学の状況をまとめたものである。今年度の一般入試の志願者数は全体で前年比107%と大きく増加した。方式別にみても一般・センター方式ともに志願者増となった。国公立大のメイン入試である前期日程志願者数が前年並みとなったのとは対照的である。

私立大ではインターネット出願の拡大、一度の試験で複数学部・学科への出願を認める、複数方式に同時出願すると受験料を割引くといった一人あたりの出願校数が増える仕組みが広がっており、これが私立大の延べ志願者数の増加につながっている。

なお、現行課程に移行後、センター試験の理科の科目負担は文系・理系ともに重くなっている。これも国公立大を敬遠して私立大を手厚く受験するといった動きの背景となっていると思われる。

【表1】私立大 大学グループ別志願状況

学校区分	一般方式			センター利用方式			合計			
	16年度	17年度	前年比	16年度	17年度	前年比	16年度	17年度	前年比	
主要106大学 計	1,582,416	1,704,778	108%	729,896	777,741	107%	2,312,312	2,482,519	107%	
主な内訳	早慶上理	196,881	208,186	106%	33,859	33,141	98%	230,740	241,327	105%
	MARCH	275,197	292,159	106%	129,800	136,366	105%	404,997	428,525	106%
	日東駒専	141,595	159,960	113%	96,301	108,777	113%	237,896	268,737	113%
	成成明國武	60,175	63,888	106%	33,689	37,466	111%	93,864	101,354	108%
	首都圏理系9大学	116,148	119,010	102%	69,902	70,138	100%	186,050	189,148	102%
	首都圏女子13大学	34,060	36,580	107%	22,873	24,276	106%	56,933	60,856	107%
	関関同立	172,623	182,198	106%	75,774	77,995	103%	248,397	260,193	105%
	産近甲龍	147,185	176,764	120%	45,525	49,725	109%	192,710	226,489	118%
	上記以外の大学	438,552	466,033	106%	222,173	239,857	108%	660,725	705,890	107%

※数値は2/17現在、出願期間中の方式、2期入試および2部(夜間主)は集計対象外(大学グループ)

早慶上理: 早稲田・慶應義塾・上智・東京理科 MARCH: 明治・青山学院・立教・中央・法政 成成明國武: 成蹊・成城・明治学院・國學院・武蔵

日東駒専: 日本・東洋・駒澤・専修 首都圏理系9大学: 千葉工業・北里・工学院・東京工科・東京電機・東京都市・東京農業・麻布・神奈川工科

首都圏女子13大学: 大妻女子・学習院女子・共立女子・白百合女子・実践女子・昭和女子・聖心女子・清泉女子・津田塾・東京女子・日本女子・東洋英和女学院・フェリス女学院

関関同立: 関西・関西学院・同志社・立命館 産近甲龍: 京都産業・近畿・甲南・龍谷

## ■都市部の大学で志願者増目立つ

今春も現時点で志願者数が10万人を超えた大学が5大学ある。日本大、法政大、明治大、早稲田大、近畿大の5大学で、いずれも昨春より志願者が増加した。法政大、明治大、早稲田大の3大学は現時点で11万人を、近畿大ではすでに12万人を超えており、都市部の大規模大で志願者増が目立つ状況だ。

大学グループ別の志願状況では、「早慶上理」は前年比105%となった。私立大全体と比較すれば増加率はやや低い。慶應義塾大の志願者数は前年並みであるが、昨年まで2年連続で増加していた志願者数を維持した形だ。早稲田大、上智大、東京理科大では志願者は増加した。早稲田大は2年連続の志願者増となった。なお、センター方式ではグループの志願者数は前年を割り込んでいるが、これは東京理科大の志願者減の影響で、早稲田大ではセンター方式も志願者は増加した。

「MARCH」は前年比106%となった。グループ内では唯一中央大で志願者が減少した。また、法政大では前年比117%、人数にして約1万7千人増となった。昨春入試で比較的多くの合格者を出していたことが人気高騰の理由の一つだろう。

「日東駒専」は志願者前年比113%と大きく増加した。いずれの大学も志願者が増加したが、専修大(前年比126%)、東洋大(119%)の志願者増が目につく。専修大ではセンター方式で今年から2学科併願する場合の受験料が据え置きとなり、センター方式の志願者数は前年比149%となった。東洋大も志願者は前年比119%と大きく増加した。東洋大では国際地域学部を改組して国際、国際観光の2学部を設置した。志願者数は両学部合わせて9万人を超えた。前年の国際地域学部の志願者数より4割ほど多い。また、新設の情報連携学部にも2千3百人の志願者が集まったほか、既存の学部も社会科学系を中心に志願者が増加した。

「首都圏理系9大学」は前年比102%と志願者の増加率は小幅だ。一方、「成成明國武」では前年比108%と志願者が増加した。國學院大、成蹊大、武蔵大の志願者は前年から1割以上増加した。

西に目を向けると、「関関同立」は前年比105%となった。「早慶上理」同様、私立大全体よりはやや低い増加

率となった。同志社大、関西学院大では前年から1割以上志願者が増加した。同志社大の志願者増には、大阪大後期廃止により私立大の出願を手厚くする動きも影響していそう。また、関西学院大では4年ぶりの志願者増となった。立命館大、関西大では志願者数は前年並みとなった。

なお、「産近甲龍」は前年比118%と増加率が高い。京都産業大、近畿大で大きく志願者が増加した影響である。京都産業大は現代社会学部を新設、約6千人の志願者が集まった、近畿大では理系学部に新たな併願方式を導入したほか、全学で9百名以上の入学定員増となることなどが志願者増につながった。入学定員増は募集要項表紙などでも謳っており、受験生に伝わりやすかったものと思われる。

## ■学部系統別—社会科学系の人気、理学系の不人気が鮮明

【グラフ2】は学部系統別の志願動向である。私立大全体の前年比107%を基準に各系統の動向を確認すると、昨年までの鮮明な文高理低とはやや状況が異なっている。文系では人文科学で前年比104%と、増加率が低めとなった。分野別にみると、外国語系の志願者が前年並みにとどまった。今春も国際系の学部・学科の新設が相次いでおり、志願者が分散した形だ。一方、社会科学では前年比112%と志願者が大きく増加した。なかでも国際系（前年比120%）と経済系（同113%）で増加率が高くなった。国際系では前述の東洋大の2学部のほかにも昭和女子大（国際）2,391人、南山大（国際教養）1,473人など、新設学部も堅調に志願者を集めた。一方、既存の大学ではこれらの大学に志願者を奪われ、減少した大学もみられた。

理系では理学で前年比95%、工学で同104%、農学で同106%となった。理学では志願者が減少しており、不人気が顕著となった。工学、農学についても志願者は増加したものの、私立大全体と比較すれば増加幅は小さく、人気とはいえない状況だ。医療系では医学科で前年比105%となった。これは国際医療福祉大に医学部が新設された影響で、これを除くと前年比は98%と志願者は前年を下回る。国公立大でも医学科の志願者はやや減少しており、数年前までの医学科人気は沈静化したといっていよう。薬学は国公立大では志願者が増加したが、私立大では前年並みとなった。慶應義塾大（前年比91%）、東京理科大（同108%）など、前年から大きく変動した大学もあるが、全体では前年並みに落ちついた大学が目立つ。

## ■各地区主要大学の志願状況

次に全国の主要大学の志願状況（判明分）をみてる。【表3】はいずれも2月17日までに判明した1期（2月実施）入試の集計である。

### 【青山学院大学】

大学全体の志願者数は前年比102%、過去10年で最多となった。方式別にみると、一般方式で前年比103%、センター方式で同99%と、増加は一般方式によるものである。センター方式では昨年も志願者が減少したが、増加に転ずることはなかった。

学部別にみて志願者が増加したのは、地球社会共生、経済、社会情報学部などである。このうち地球社会共生学部は前年の2倍の志願者が集まった。昨年の志願者数が前年比54%と大きく減少したことから、反動も大きくなった。社会情報学部は昨年大きく志願者が増加した学部であるが、今年はさらに増加した。

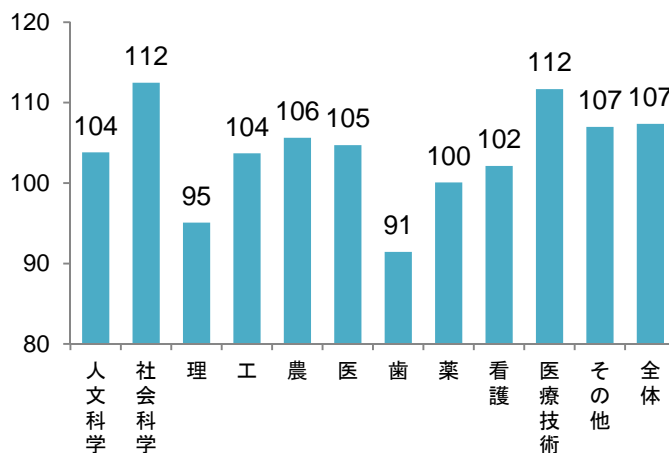
一方、志願者が減少したのは、総合文化政策、法、経営学部などである。いずれも前年の志願者が増加しており、その反動が出た形だ。なお、昨年よりいくつかの学部・学科で英語外部試験利用型の方式を導入しているが、今春は国際政治経済学部のB方式で従来の英語リスニングを廃止し、出願要件に英語外部試験のスコアを加えた。志願者数は前年から4割減少、過去10年でみても最少となった。

### 【慶應義塾大学】

大学全体の志願者数は前年比100%、大学全体としては堅調な人気を保っているといえるだろう。

学部別にみると、志願者の増加が目立つのは文、総合政策学部である。なかでも文学部の志願者は2年連続で1割程度増加しており、今春の志願者数は2年前から約1千人増となった。一方で、法学部の志願者は前年比101%、経済学部では同98%と、落ち着いた動向となった。理系に目を向けると、理工学部で前年並みの志願者数となったものの、医、薬、看護医療の医療系3学部ではいずれも志願者が減少した。なかでも医、薬学部では

【グラフ2】私立大 学部系統別志願状況



※数値は志願者前年比 (%)

※2/17判明分で、出願期間中の方式、2期入試および2部（夜間主）は除いて比較

3年連続の志願者減である。

【表3】主要私立大 大学別志願状況

【上智大学】

志願者数は前年比 106%と増加した。学部別にみると、法、理工学部を除き、いずれも増加となった。

導入3年目となるTEAP利用型では前年比96%と志願者が減少、2年連続の減少となった。今春は全学部・学科で4技能が必要となった。このため、2技能から4技能に変わる学部・学科で志願者の減少が目立った。とくに法学部では法律、地球環境法学科あわせて4割減、理工学部では6割減と志願者が大きく減少した。

学科別入試では、文、外国語、総合グローバル、経済学部などで志願者が前年から1割以上増加した。外国語学部の英語学科では2次試験を廃止したこともあり、志願者は613人→913人と大きく増加した。一方、総合人間科学部の看護学科は、数学、理科の出題範囲変更により、実質文系生の受験が難しくなった。このため志願者数は532人→373人と大きく減少した。

【中央大学】

志願者数は大学全体で前年比98%とやや減少した。MARCHで唯一志願者が減少した。方式別にみると一般方式で前年比103%、センター方式で同92%と、減少の要因はセンター方式にある。

一般方式の学部別の状況をみると、志願者の増加が目立つのは総合政策、経済、商学部である。また、法学部の志願者数は前年比101%と前年並みにとどまるものの、前年に1割ほど増加した志願者数を維持しており、社会科学系の学部はいずれも人気とみてよいだろう。一方、理工学部では前年比97%と志願者が減少した。4年連続の志願者減である。

今春、文、総合政策、経済学部では英語外部検定試験利用入試を導入した。初年度の志願者数は3学部合わせて615人となった。統一入試、一般入試と比べ少ないが、志願倍率でみると20.5倍（統一入試20.0倍、一般入試12.2倍）となっており、統一入試とほぼ同率であった。

センター方式の志願者数は、併用方式が前年比93%、単独方式で同91%といずれも減少した。また学部別でもいずれの学部も志願者が減少した。なかでも文、経済学部で前年からの減少幅が大きい。両学部ともセンター方式の志願者数が5千人を切ったのは、文学部で7年ぶり、経済学部で11年ぶりとなる。

大学	一般方式			センター利用方式			合計		
	16年度	17年度	前年比	16年度	17年度	前年比	16年度	17年度	前年比
北星学園	1,903	1,918	101%	855	834	98%	2,758	2,752	100%
北海学園	3,571	3,551	99%	1,995	1,817	91%	5,566	5,368	96%
東北学院	4,912	5,736	117%	3,239	3,235	100%	8,151	8,971	110%
千葉工業	42,980	42,974	100%	27,433	25,031	91%	70,413	68,005	97%
青山学院	46,537	47,751	103%	13,313	13,215	99%	59,850	60,966	102%
学習院	17,930	18,366	102%	-	-	-	17,930	18,366	102%
北里	12,524	11,853	95%	5,117	4,199	82%	17,641	16,052	91%
慶應義塾	44,797	44,845	100%	-	-	-	44,797	44,845	100%
工学院	12,310	12,828	104%	5,103	6,530	128%	17,413	19,358	111%
國學院	12,772	14,402	113%	5,413	7,220	133%	18,185	21,622	119%
国際基督教	1,581	1,570	99%	-	-	-	1,581	1,570	99%
国士館	8,526	9,614	113%	7,811	7,545	97%	16,337	17,159	105%
駒澤	20,184	22,527	112%	16,331	16,528	101%	36,515	39,055	107%
芝浦工業	18,636	21,387	115%	12,213	14,467	118%	30,849	35,854	116%
上智	27,748	29,277	106%	-	-	-	27,748	29,277	106%
成蹊	12,643	14,081	111%	7,910	9,337	118%	20,553	23,418	114%
成城	11,450	9,776	85%	7,190	6,000	83%	18,640	15,776	85%
専修	21,085	23,881	113%	11,585	17,271	149%	32,670	41,152	126%
大東文化	7,258	8,764	121%	6,265	8,913	142%	13,523	17,677	131%
中央	40,155	41,414	103%	34,268	31,377	92%	74,423	72,791	98%
津田塾	1,575	2,230	142%	2,189	3,091	141%	3,764	5,321	141%
東海	22,396	24,771	111%	15,253	16,403	108%	37,649	41,174	109%
東京女子	4,141	4,313	104%	4,118	4,365	106%	8,259	8,678	105%
東京電機	10,419	11,031	106%	7,272	7,713	106%	17,691	18,744	106%
東京都市	7,372	6,717	91%	8,052	8,007	99%	15,424	14,724	95%
東京農業	19,305	22,045	114%	8,603	9,367	109%	27,908	31,412	113%
東京理科	32,252	35,899	111%	17,904	16,323	91%	50,156	52,222	104%
東洋	34,886	40,964	117%	35,130	42,477	121%	70,016	83,441	119%
日本	65,440	72,588	111%	33,255	32,501	98%	98,695	105,089	106%
日本女子	6,778	6,519	96%	5,041	4,520	90%	11,819	11,039	93%
法政	70,450	80,701	115%	31,526	38,505	122%	101,976	119,206	117%
武蔵	9,700	10,665	110%	3,945	5,558	141%	13,645	16,223	119%
明治	78,330	80,441	103%	29,725	32,466	109%	108,055	112,907	104%
明治学院	13,610	14,964	110%	9,231	9,351	101%	22,841	24,315	106%
立教	39,725	41,852	105%	20,968	20,803	99%	60,693	62,655	103%
早稲田	92,084	98,165	107%	15,955	16,818	105%	108,039	114,983	106%
愛知	11,407	12,379	109%	6,501	6,001	92%	17,908	18,380	103%
中京	14,323	17,867	125%	10,209	13,564	133%	24,532	31,431	128%
南山	15,465	16,432	106%	9,586	8,954	93%	25,051	25,386	101%
名城	20,818	21,971	106%	13,852	15,805	114%	34,670	37,776	109%
京都産業	21,756	26,246	121%	10,071	12,242	122%	31,827	38,488	121%
同志社	40,962	45,395	111%	9,157	10,639	116%	50,119	56,034	112%
立命館	50,002	50,844	102%	37,845	37,131	98%	87,847	87,975	100%
龍谷	34,910	36,874	106%	8,435	7,820	93%	43,345	44,694	103%
関西	56,545	57,634	102%	17,254	17,343	101%	73,799	74,977	102%
近畿	80,272	102,176	127%	20,677	23,873	115%	100,949	126,049	125%
関西学院	25,114	28,325	113%	11,518	12,882	112%	36,632	41,207	112%
甲南	10,247	11,468	112%	6,342	5,790	91%	16,589	17,258	104%
広島修道	5,273	5,279	100%	3,284	3,698	113%	8,557	8,977	105%
松山	5,554	5,422	98%	2,201	2,140	97%	7,755	7,562	98%
西南学院	13,714	13,651	100%	7,327	7,304	100%	21,041	20,955	100%
福岡	31,744	32,645	103%	13,650	14,440	106%	45,394	47,085	104%

※数値は2/17現在、出願期間中の方式、2期入試および2部(夜間主)は集計対象外

## [東京理科大学]

大学全体の志願者数は前年比 104%。前年から約 2 千人増となった。方式別では一般方式の志願者数が前年比 111%と大きく増加したのに対し、センター方式では同 91%と対照的な動向となった。

一般方式である B 方式では、今年から同一試験日・同一受験科目の場合、2 学科まで出願可能となった。このため志願者数は前年比 112%、延べ数にして 3 千 7 百人の増加となった。とくに併願しやすそうな経営学部の 2 学科、工学系の各学科で志願者の増加が目立った。なお、経営学部のビジネスエコノミクス学科のみで実施するグローバル方式は、利用できる英語外部試験を T E A P 以外にも広げたが、志願者は前年の 239 人→181 人へと減少した。

センター方式では個別試験を課さない A 方式で前年比 99%と前年並みであったのに対し、併用型の C 方式で同 68%と大きく減少した。C 方式では全学部ともセンター試験は英・国の 2 教科を利用する。今年はセンター試験国語の平均点が 20 点以上ダウンしており、センター試験後の出願である C 方式の出願を取りやめた受験生が多かったものと思われる。

## [法政大学]

大学全体の志願者は 119,206 人（前年比 117%）と大きく増加した。現時点で明治大、早稲田大を抜き、首都圏で最大の志願者を集めている。方式別にみても一般方式で前年比 115%、センター方式で同 122%と、いずれも志願者が増加した。センター方式では B 方式に国際文化学部が加わったほか、C 方式も現代福祉学部などいくつかの学部・学科が新たに実施するが、それ以外の学部・学科でも志願者が増加したところが目立つ。

一般方式では、T 日程、A 方式をあわせた志願者数は 1 万人近く増加した。また、英語外部試験利用入試も実施学部の増加、利用可能な試験に T E A P が追加されたことなどから、志願者数は大学全体で 430 人→969 人に増加した。

学部別にみると、とくに志願者の増加率が高かったのは、文（前年比 125%）、国際文化（同 149%）、経済（同 138%）、経営（同 122%）、人間環境（同 143%）である。このうち国際文化学部では前述の通りセンター方式を新規導入した。センター方式には 1,134 人の志願者が集まった。一方でグローバル教養学部のセンター方式では、志願者が前年比 61%と大きく減少しており、国際文化学部で新規にセンター方式を導入したことが影響したものと思われる。

志願者数が減少したのは、グローバル教養、現代福祉学部の 2 学部である。この 2 学部は前年に志願者が大きく増加しており、その反動もあるだろう。

## [明治大学]

大学全体の志願者数は前年比 104%と増加した。方式別にみると、一般方式で前年比 103%、センター方式で同 109%とセンター方式で増加率が高くなった。一般方式では一般選抜が前年比 101%と前年並みの志願者数であるのに対し、全学部統一は同 110%と大きく増加した。全学部統一入試の志願者増の要因は政治経済学部である。政治経済学部では数学が必須ではなくなり、必要科目数も 4 科目から 3 科目に減少した。このため、志願者数は 1,134 人→2,773 人と 2.4 倍に膨れあがった。

学部別の志願状況を確認すると、文学部では全学中で唯一志願者が減少した（前年比 90%）。一般・センター方式ともに減少となった。また、法学部では 5 年ぶりに志願者数が 1 万人を超えた。経営学部では新たに英語 4 技能試験活用方式を導入した。募集人員 40 名に対し志願者数は 174 人と、志願倍率は 4.4 倍にとどまった。商学部ではセンター方式の理科の指定科目を変更した。昨年まで理科は理科②が指定されていたが、今年は理科①も利用できるようになった。なかでも理科が必須であった 6 科目方式では、志願者数は 364 人→1,090 人と約 3 倍になった。選択可能科目が同系統の他大学とある程度揃っているか否かは、志願者数に少なからず影響することを実証した形だ。

## [立教大学]

大学全体の志願者数は前年比 103%と増加した。方式別では一般方式で前年比 105%、センター方式で同 99%となった。センター方式では昨年 1 割以上志願者が減少したが、その反動はみられなかった。近年、立教大では志願者数の隔年現象がみられ、今春は増加年にあたる。ここ 5 年ほどをみると、志願者の増加以上に減少数が大きく、増減を繰り返しながらも志願者数は減少傾向にある。

学部別にみても前年の反動が出ている学部が多い。例えば、経済学部で前年比 125%、経営学部で同 120%と増加率が高くなったが、この 2 学部は前年に減少していた。反対に法学部は前年志願者が増加した学部だが、今年は前年比 86%と大きく減少した。なお、異文化コミュニケーション学部では 5 年連続の志願者減となった。近年、国際系学部・学科の新設が相次ぎ、選択肢が増えていることから難関である当該学部を避ける動きがありそうだ。

英語外部試験が出願要件となる全学部日程グローバル方式は、実施 2 年目を迎えた。志願者数は 374 人→1,397 人と大きく増加した。初年度の昨年は、学科によっては志願倍率（志願者／募集人員）が 2 倍を切ったところもあった。受験生には狙い目と映り、今年の志願者増につながったものとみる。



## 【早稲田大学】

大学全体の志願者数は前年比 106%、2 年連続の増加となった。志願者数が 11 万人を超えたのは 6 年ぶりとなる。方式別でも一般方式で前年比 107%、センター方式で同 105%と、いずれも増加した。

学部別にみると、志願者が増加したのは、文、教育、文化構想、社会科学、商、人間科学部などである。教育学部は 4 年連続で志願者が増加しており、過去 10 年で最多であった昨年の志願者数をさらに上回った。文、文化構想学部では、新たに英語 4 技能テスト利用型を導入した。募集人員が文 50 名、文化構想 70 名と他大学に比べ多いということもあってか、それぞれ 368 人、543 人と比較的多めの志願者が集まった。また、新方式導入により 2 学部とも既存の一般方式の募集人員が減少したが、志願者は増加した。とくに文化構想学部では志願者が 1 割以上増加し、一般方式だけで 1 万人を超えた。政治経済学部では政治、国際政治経済学科で志願者が増加したもの、経済学科では減少した。一般方式で 1 割ほど減少となった。社会科学部では昨年の志願者数が過去 10 年で最少となっていたが、今年は前年比 112%、8 年ぶりの増加となった。

理工 3 学部の志願者は、基幹理工 (前年比 104%)、創造理工 (同 101%)、先進理工 (同 99%) となった。基幹理工学部では 2 年連続の志願者増となっており、2007 年度の学部設置以降初めて志願者が 5 千人を超えた。また、3 学部の志願者数は、これまで先進理工学部が最多で推移してきたが、初めて基幹理工学部が最多となった。

## 【同志社大学】

大学全体の志願者数は前年比 112%、過去 10 年で最多となった。方式別にみても一般方式で前年比 111%、センター方式で同 116%と、いずれも大きく増加した。今春は大阪大が後期日程を廃止した。すでに京都大も法学部特色入試を除き後期日程を廃止しており、近畿地区の後期出願先が狭まっている。これが同志社大の志願者増の要因の一つかもしれない。

学部別にみても志願者の増加が目立つが、とくに増加率が高かったのは文、社会、法、政策、経済、商学部などである。社会科学系では軒並み志願者が増加した。法学部は 2 年連続、経済学部は 5 年連続の増加となっており、経済学部では過去 10 年で最大の志願者数となった。社会学部ではセンター方式の志願者数が 234 人→801 人と前年から 3 倍増となった。社会学科と教育文化学科では個別試験 (小論文) を取りやめ、センター試験のみとなったため、両学科で志願者が大きく増加した。

志願者が減少したのは、心理、グローバル・コミュニケーション、グローバル地域文化の 3 学部である。グローバル・コミュニケーション学部は、昨春、学部設置以来初めて志願者が増加したが、今春は再び減少に転じた。グローバル地域文化学部は 3 年連続の志願者減となった。近年、近畿地区でも国際系の学部・学科の設置が進む。選択肢が増えたことで、入試難度の高い当該大が敬遠されているのかもしれない。

理系の学部の志願者数は、理工 (前年比 105%)、生命医科学 (同 102%) といずれも増加した。志願者の増加が目立つ学科は、理工学部のインテリジェント情報工、機能分子・生命科学、環境システム、生命医科学部の医情報などで、前年の実質倍率が低かった入試方式で増加した。

## 【立命館大学】

大学全体の志願者数は前年比 100%となった。昨年、学部新設、新キャンパス設置などにより志願者は前年から約 1 割増加したが、今春もその志願者数を維持した。方式別にみると、一般方式で前年比 102%、センター方式で同 98%と、対照的な動向となった。

学部別にみると、産業社会、経済、経営学部で志願者が大きく増加した。産業社会、経営学部ではいずれも志願者数は 1 万人を超え、過去 10 年で最多となった。経済学部では国際経済学科を募集停止、経済学科に経済、国際の 2 専攻を新設した。国際専攻では併用方式以外のセンター方式は実施しない、一般方式では学部個別配点方式は実施しないなど、学部として募集区分数が減少したものの志願者は前年から 1 割増となり、経済学部の人気を感じる。

なお、大学全体では前年並みとはいえ、志願者が減少した学部も目立つ。なかでも大きく減少したのは、総合心理、国際関係、政策科学、映像学部などである。設置 2 年目を迎えた総合心理学部は、前年比 69%と志願者が大きく減少した。センター 3 教科型を廃止して募集区分が減少した影響に加え、初年度に 4,000 人を超える志願者が集まっていた反動でその他の入試方式でも減少が目立った。

理工系 3 学部では、理工 (前年比 100%)、生命科学 (同 106%)、情報理工 (同 97%) となった。いずれの学部も一般方式で志願者減、センター方式で増となった。昨年は 3 学部ともセンター方式の実質倍率が 2 倍台前半と低めとなっており、とくに昨年実質倍率が 2 倍を切った方式が目立った生命科学部生命情報学科で志願者の増加が顕著であった。

## 【関西大学】

大学全体の志願者数は前年比 102%と増加した。方式別にみても一般方式で前年比 102%、センター方式で同 101%と大きな違いはみられない。今春は大きな入試変更がなかったことも理由だろう。

学部別の志願者数をみていくと、隔年現象を起こしている学部が目につく。文、社会安全、政策創造学部は昨年の志願者減の反動から今春は大幅に増加した。反対に、法、人間健康学部では前年志願者増、今春は減少とな

った。とくに法学部は昨年新方式の導入などで志願者が大きく増加していたため、今春は前年比 88%と 1 割以上減少した。対照的に、経済学部では 2 年連続の志願者増となった。学部個別日程で増加数が多い。外国語学部では 2 年連続の志願者減となった。今春は前年から 1 割減少した。他大での国際系学部・学科の新設により、志願者が他大学へ分散しているのだろう。

理工系学部の志願者は、システム理工（前年比 103%）、環境都市工（同 91%）、化学生命工（同 88%）、となった。このうち化学生命工学部の志願者数は 4 千人を割り込み、2007 年度の学部新設以来最少となった。他の 2 学部も近年志願者は減少傾向にあり、3 理工学部をあわせた志願者数は 3 年連続で減少している。

### **[関西学院大学]**

大学全体の志願者は前年比 112%、4 年ぶりの志願者増となった。方式別でも一般方式で前年比 113%、センター方式で同 112%と、いずれも増加した。学部別にみると、法学部で唯一志願者が減少した。今春は前年比 98%と減少幅は小さいが、3 年連続で減少しており、今春の志願者数は 3 年前から 5 百人以上減少した。一方、文学部は昨年まで 4 年連続、社会、国際、経済学部では 3 年連続で志願者が減少していたが、今春はいずれも増加に転じた。社会、経済学部の志願者は前年の 3 割以上と大幅な増加となった。

理工学部の志願者は前年比 106%と増加した。方式別では一般方式で前年比 109%と増加率が高かった。化学、環境・応用化学科で独自方式日程を新規実施、独自方式日程は学部全体で前年比 167%となった。